

大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎学校評価資料
一生徒、保護者、教師を対象とする調査結果一

平成 27 年 3 月

1 調査の概要

(1) 調査内容

調査は、生徒、保護者、教員を対象に実施し、次の内容について回答を求めた。

【生徒・保護者用】	
Q1	中学・高校の別
Q2	性別(生徒の性別)
Q3	学年
Q4	組
Q5	SSH履修の有無
生徒用; 「一学期からの自分の学校生活を振り返ってください。」 保護者用; 「保護者からみて、今年度一学期のお子さんの学校生活がどのような状態だと思われましたか。」 (1; そう思わない 2; あまりそう思わない 3; 多少そう思う 4; そう思う)	
Q6	将来の目標を持ち、それに向けて努力している。
Q7	物事をよく観察して調べたり考えるといった探究の活動に積極的に取り組んでいる。
Q8	他の人の話をよく聞いたり、自分の考えを他の人に伝えることができる。
Q9	興味・関心を持って授業を受けている。
Q10	予習・復習や課題の提出など、普段から一生懸命努力している。
Q11	いま、学校生活で悩んでいることは特にない。
Q12	他の生徒と協力して活動している。
Q13	学校で周りの人を大切にしている。
Q14	学校の決まり事を守っている。
Q15	充実した学校生活を送っている。
【教員用】	
Q1	中学・高校の別
Q2	性別
Q3	SSH指導の有無
「一学期からの自分の教育活動を振り返ってください。」 (1; そう思わない 2; あまりそう思わない 3; 多少そう思う 4; そう思う)	
Q4	生徒に将来の目標を持たせ、それに向けて努力させている。
Q5	探究活動を意識して、生徒に積極的に取り組ませている。
Q6	読解力や表現力育成を意識して、生徒に指導を行っている。
Q7	生徒に興味・関心を持たせるため、授業に工夫をこらしている。
Q8	予習・復習や課題の提出など、普段から生徒に努力させている。
Q9	ゆとりを持って、生徒の指導や相談に対応している。
Q10	他の生徒と協力して活動するよう指導している。
Q11	生徒に人権を尊重した仲間づくりを意識させている。
Q12	時間を意識した生活を指導している。
Q13	身なりを意識した生活を指導している。
Q14	教室の整理整頓を意識した生活を指導している。
Q15	生徒が充実した生活を送れるように、努力している。
生徒・保護者の回答と比較する場合は、 Q12～Q14の回答の平均を用いた。	

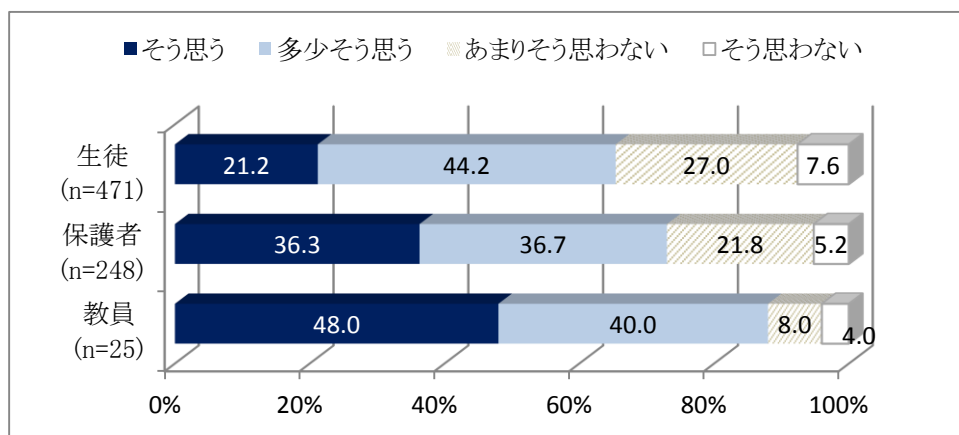
(2) 回答者数

対象ごとの有効回答者数は下表のとおりである。なお、無記入・不明回答は欠損値として処理したため、属性ごとの各対象の度数の合計が異なる、あるいは、パーセントの合計が100にならない場合がある。

属性 対象	性別		SSHの学習・指導の有無		学年		
	男性	女性	あり	なし	1年	2年	3年
生徒 (n=471)	224 47.6	247 52.4	131 27.8	333 70.7	163 34.5	160 33.9	149 31.6
保護者 (n=248)	119 48.0	129 52.0	80 32.3	167 67.3	95 38.3	90 36.3	63 25.4
教員 (n=25)	17 68.0	8 32.0	14 56.0	11 44.0			

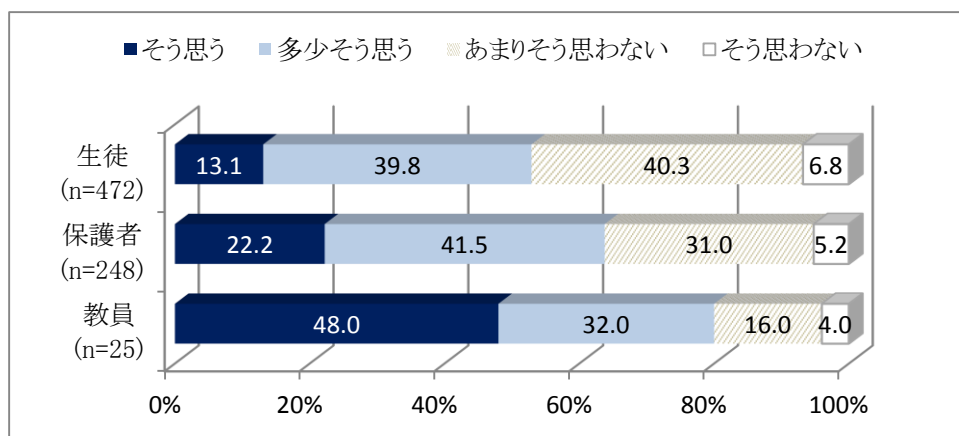
(3) 学校生活にかかわる自己評価の(クロス集計)結果

① 将来の目標



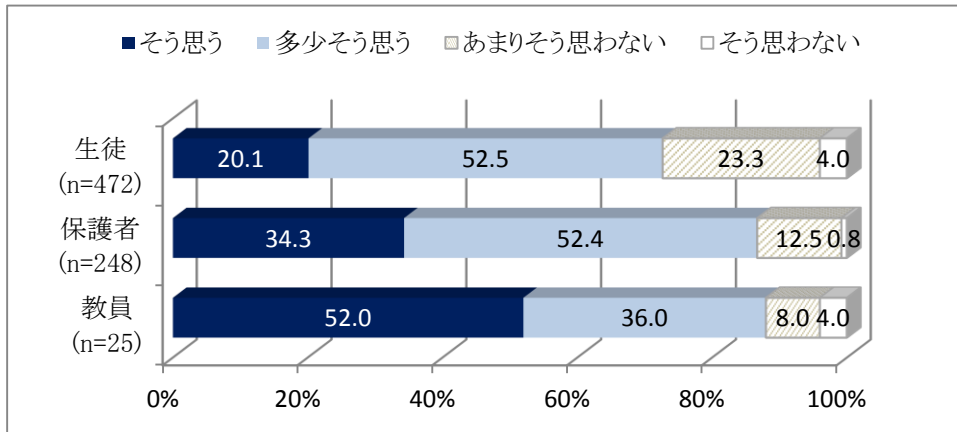
生徒、保護者、教員とも、肯定的な回答が多数となっている。その一方で、生徒の否定的な回答が3割を超えている。

② 探究活動



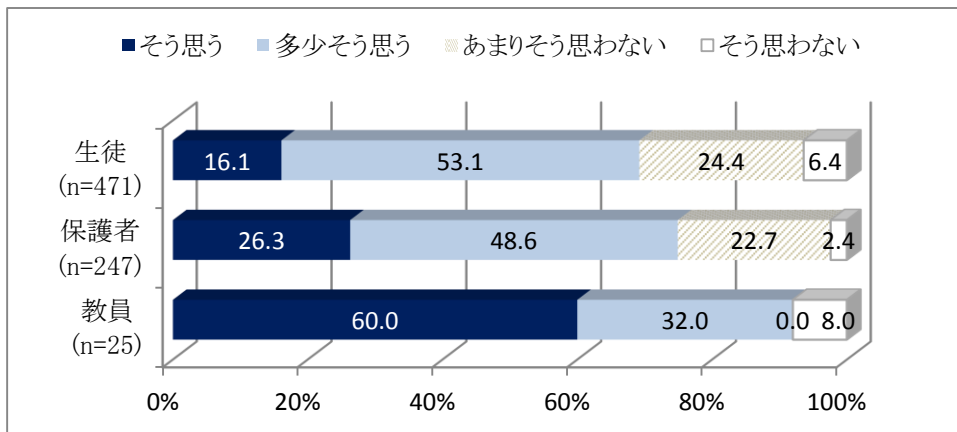
生徒、保護者、教員とも肯定的な回答の比率が5割を超えているものの、生徒の「そう思う」という回答は13.1%と相対的に低い値となっている。

③ 聞く伝える



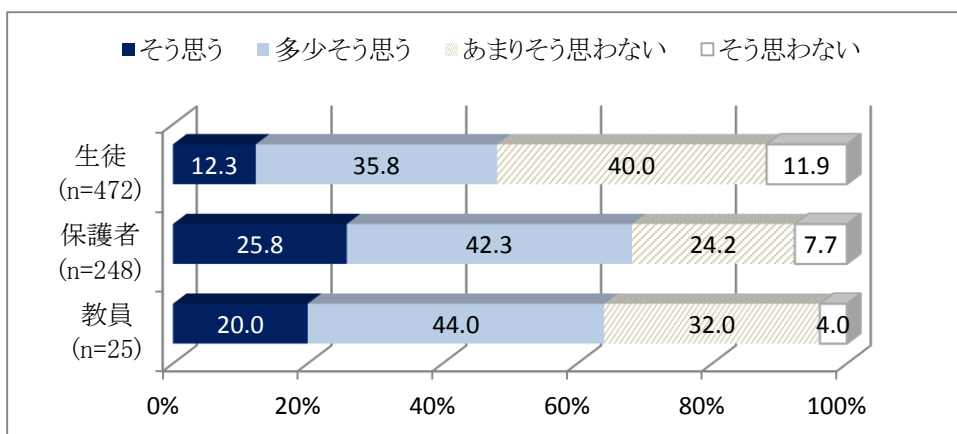
生徒、保護者、教員とも肯定的な回答の比率が7割を超えているものの、生徒の「そう思う」という回答は20.1%と5人に1人程度にとどまっている。

④ 興味・関心と授業



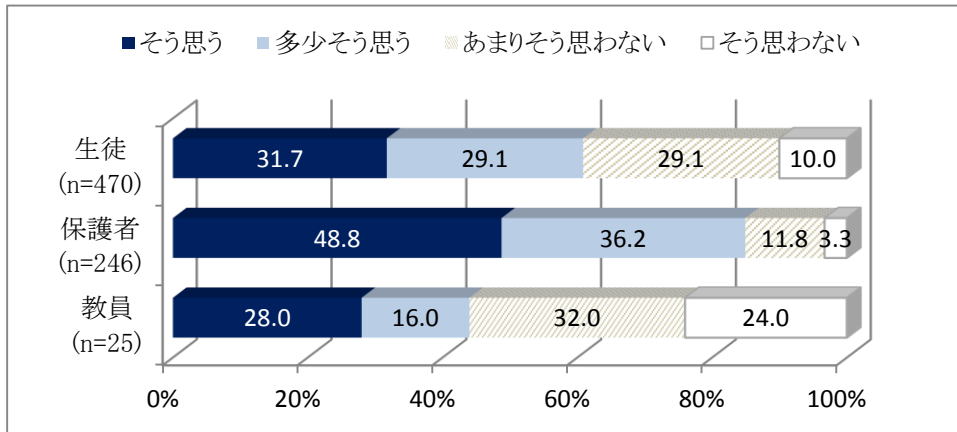
肯定的な回答の比率が、生徒、保護者ともほぼ7割となっている。教員の肯定的な回答は9割を超えるが、「そう思う」という回答は60.0%となっている。

⑤ 予習・復習努力



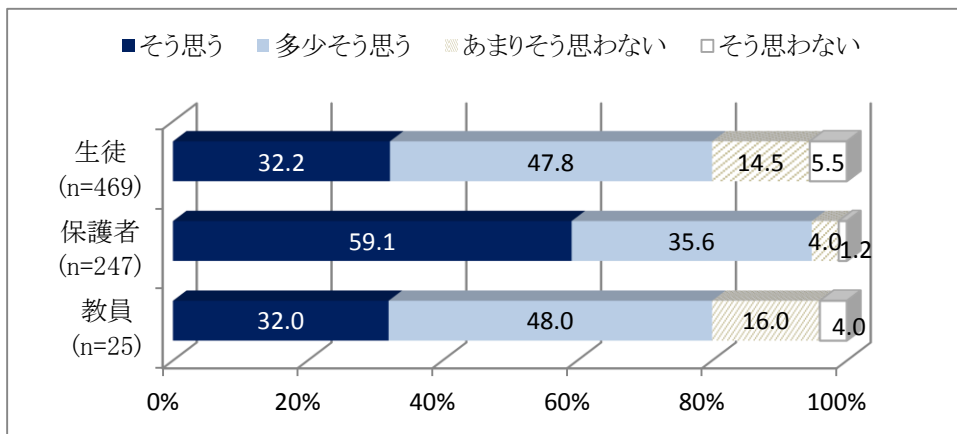
保護者、教員とも肯定的な回答の比率が5割を超えているものの、生徒の「そう思う」という回答が12.3%と相対的にも低調であり、肯定的な回答が5割に満たない。

⑥ 学校生活と悩み



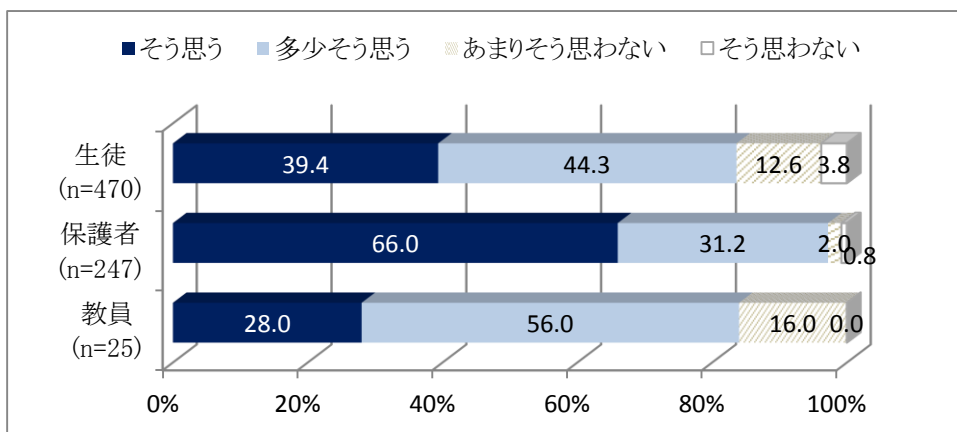
ゆとりをもって生徒の指導や相談に応じているとする教員の割合が 28.0%と相対的に低い結果となっている。その一方で、39.1%とほぼ 4 割の生徒が不安や悩みを抱えている状況にあることがうかがえる。組織的な対応の在り方が問われる結果といえよう。

⑦ 他人との協力



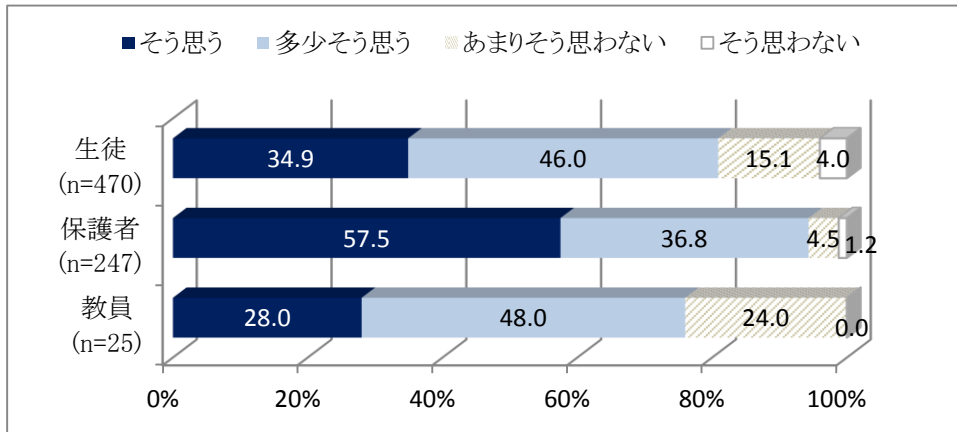
生徒、保護者、教員とも肯定的な回答がほぼ 8 割を超えている。生徒と教員の回答パターンはほぼ同様となっている。

⑧ 他人の尊重



生徒、保護者、教員とも肯定的な回答の比率が 8 割を超えているものの、否定的な回答をする生徒が 16%に達している。

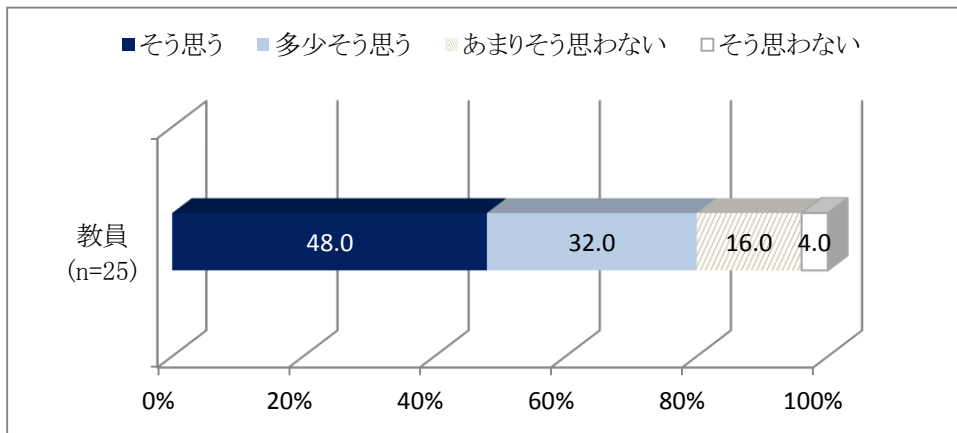
⑨ 決まりの順守



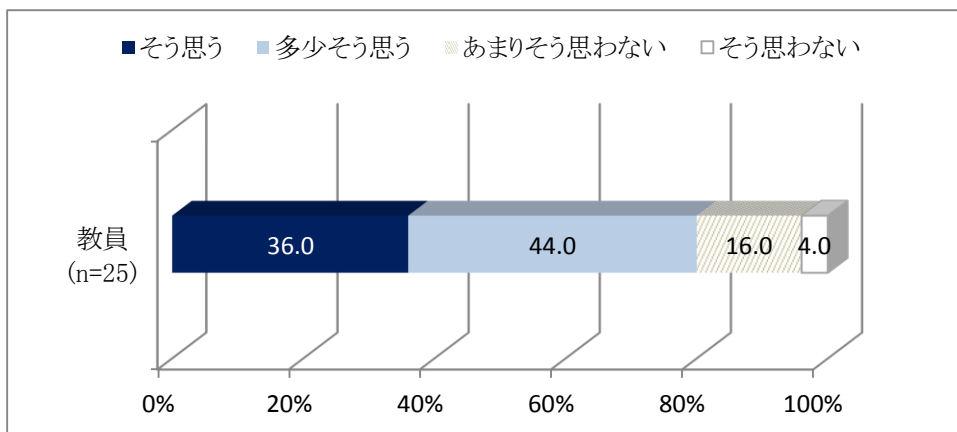
教師の 28.0%と、ほぼ3割が生活上の指導をしているとは「思わない」と答えており、「あまりそう思わない」と合わせると、その比率は 76.0%に達する。

<教師用>

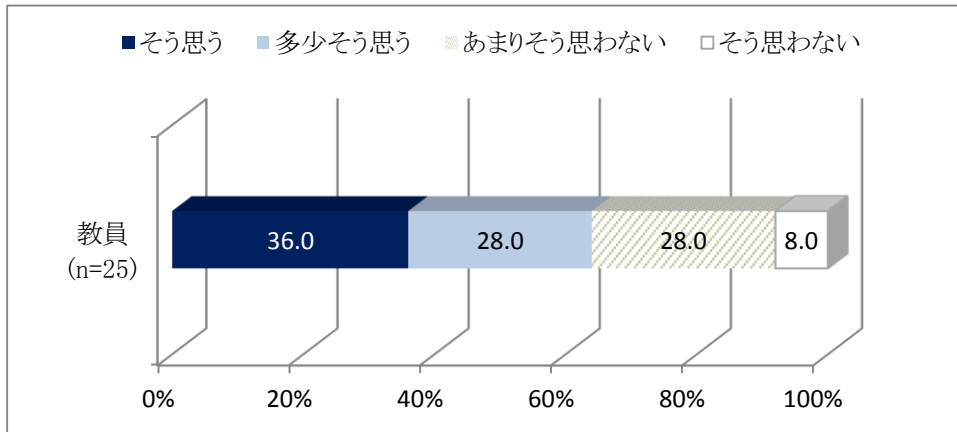
⑨-1 時間を意識した生活を指導している。



⑨-2 身なりを意識した生活を指導している。

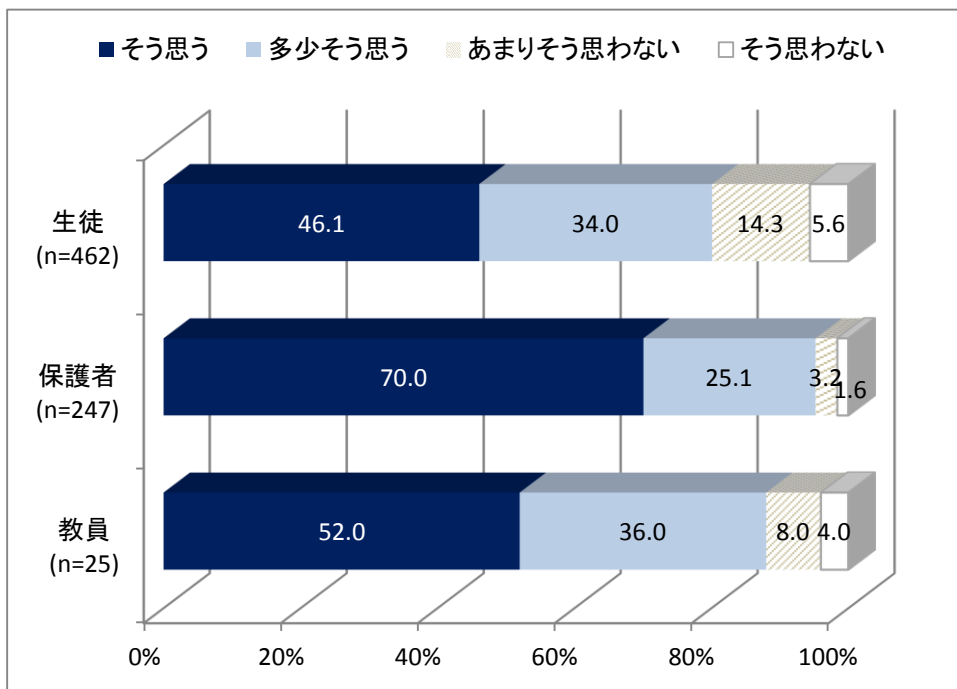


⑩ -3 教室の整理整頓を意識した生活を指導している。



前年度の結果では、「身なり」にかかわる指導のポイントが相対的に低くかったが、今年度は服装規定にかかわる校則の徹底を図ったことと符合する結果となっている。

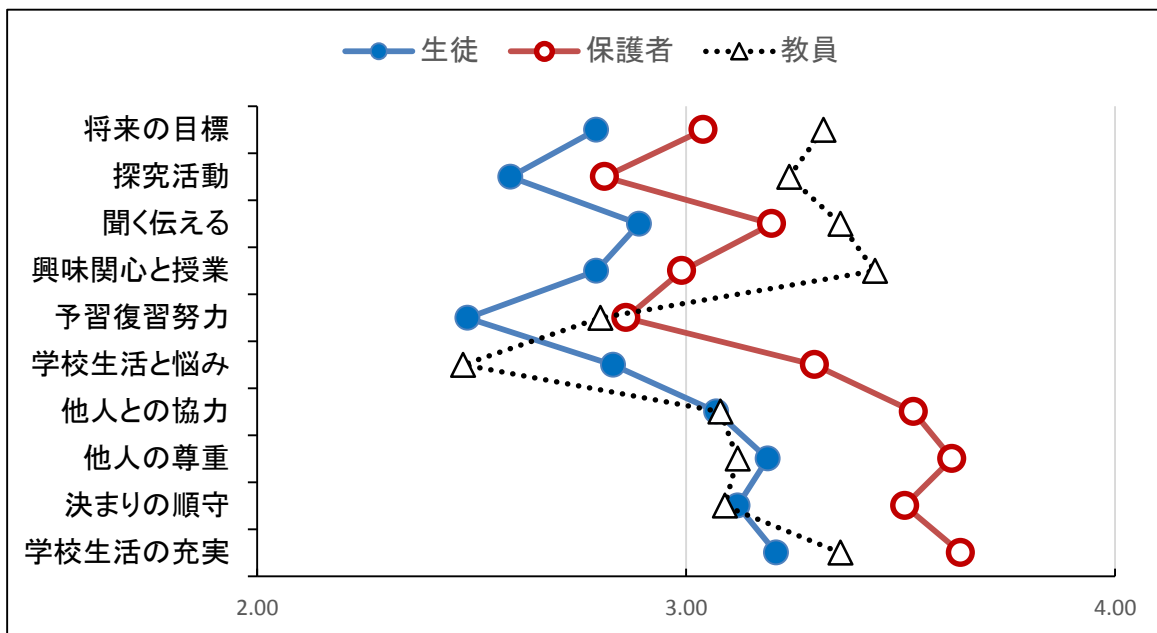
⑪ 学校生活の充実



肯定的な回答の比率が、保護者で95.1%と9割を超え、教員も同様に88.0%とほぼ9割に達している。一方で、生徒は肯定的な回答者の割合が8.01%と8割は超えるものの、保護者、教員と比較すると相対的に低い傾向にある。学校全体の組織的取り組みを通して、この割合の極大化に努める必要がある。

(4) 学校生活にかかわる自己評価の比較

① 生徒、保護者、教員間比較



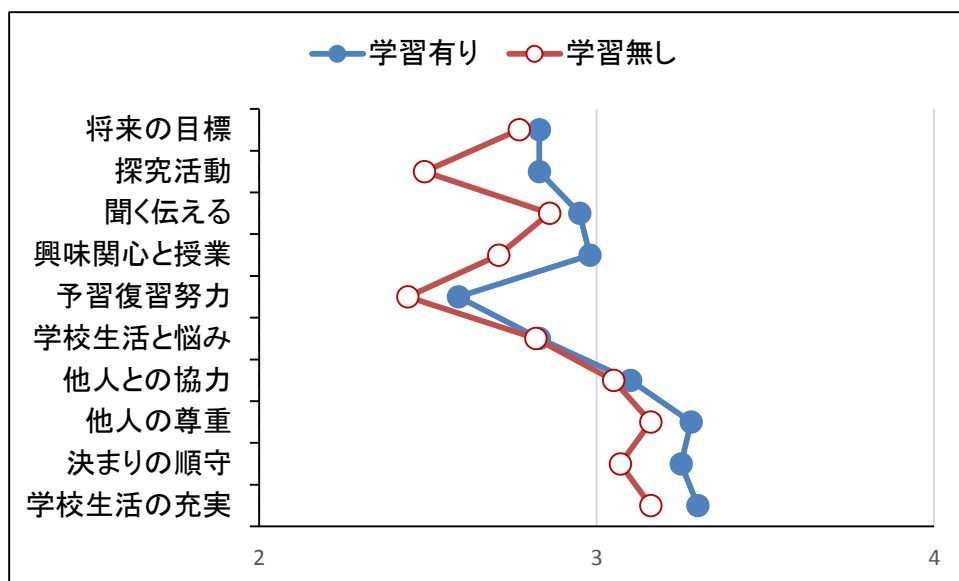
項目	生徒	保護者	教員	F値	多重比較		
					教員>生徒	保護者>生徒	保護者>教員
将来の目標	2.79	3.04	3.32	9.872	教員>生徒	保護者>生徒	
探究活動	2.59	2.81	3.24	11.489	教員>生徒	教員>保護者	保護者>生徒
聞く伝える	2.89	3.20	3.36	17.622	教員>生徒	保護者>生徒	
興味関心と授業	2.79	2.99	3.44	11.868	教員>生徒	教員>保護者	保護者>生徒
予習復習努力	2.49	2.86	2.80	15.993	保護者>生徒		
学校生活と悩み	2.83	3.30	2.48	24.631	保護者>教員	保護者>生徒	
他人との協力	3.07	3.53	3.08	29.406	保護者>生徒	保護者>教員	
他人の尊重	3.19	3.62	3.12	29.785	保護者>生徒	保護者>教員	
決まりの順守	3.12	3.51	3.09	22.149	保護者>生徒	保護者>教員	
学校生活の充実	3.21	3.64	3.36	22.831	保護者>生徒		

「将来の目標」から「学校生活の充実」までの10項目に対する回答（1：そう思わない、2：あまりそう思わない、3：多少そう思う、4：そう思う）を比率尺度とみなして、生徒、保護者、教員の各項目に対する回答の平均を算出し、平均の差の推計に一要因分散分析を施した。多重比較には **tukey** の法を用いた。

その結果、すべての項目において、生徒、保護者、教員の間には1%水準で有意差を認めることができた。上表では有意水準は省略し、多重比較の結果のみ示した。

「将来の目標」「探究活動」「聞く伝える」「興味関心と授業」については、生徒に比し教員の肯定的回答のポイントが高く、「学校生活と悩み」「他人との協力」「他人の尊重」「決まりの順守」「学校生活の充実」については、生徒、教員に比し保護者の肯定的回答のポイントが高い。「予習復習努力」については、各項目に対するポイントの中でも、最も低い値となっている。

② 生徒のSSHの学習の有無による比較



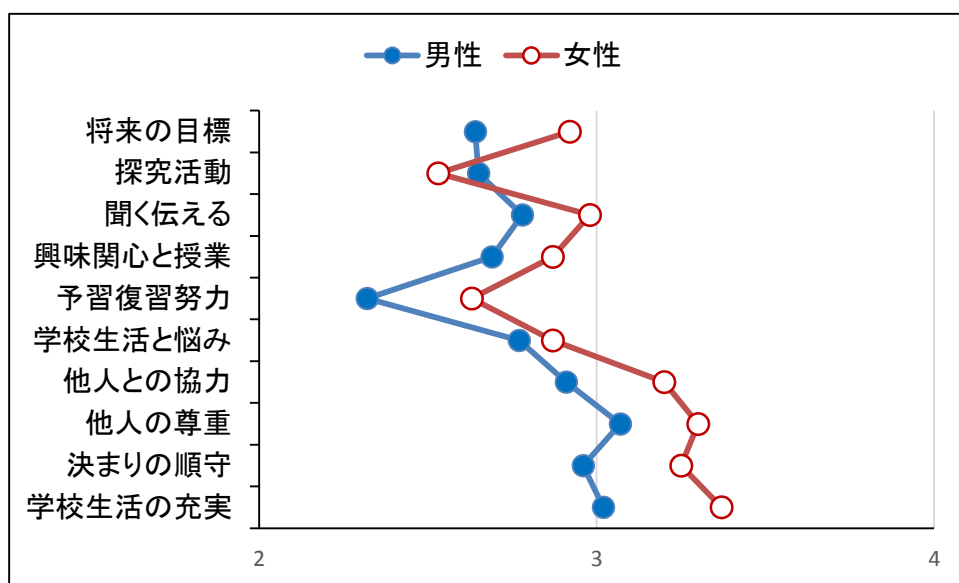
項目	学習有り	学習無し	t値	有意水準
将来の目標	2.83	2.77	0.626	
探究活動	2.83	2.49	4.225	p<0.01
聞く伝える	2.95	2.86	1.147	
興味関心と授業	2.98	2.71	3.307	p<0.01
予習復習努力	2.59	2.44	1.738	
学校生活と悩み	2.83	2.82	0.083	
他人との協力	3.10	3.05	0.576	
他人の尊重	3.28	3.16	1.383	
決まりの順守	3.25	3.07	2.158	p<0.05
学校生活の充実	3.30	3.16	1.513	

生徒を SSH の学習有り、無しの 2 群に分け、「将来の目標」から「学校生活の充実」までの 10 項目に対する回答（1：そう思わない、2：あまりそう思わない、3：多少そう思う、4：そう思う）を比率尺度とみなして平均を算出し、平均の差の推計のために対応のない t 検定を施した。

その結果、SSH の学習の有り、無しで有意差が認められたのは「探究活動」「興味関心と授業」「決まりの順守」であった。他の項目については有意差を認めることはできなかった。

とりわけ、「探究活動」「興味関心と授業」については、学習無しの生徒のポイントが相対的にも絶対的にも低いことが有意差の検出に影響したものと考えられる。

③ 生徒の性別による比較

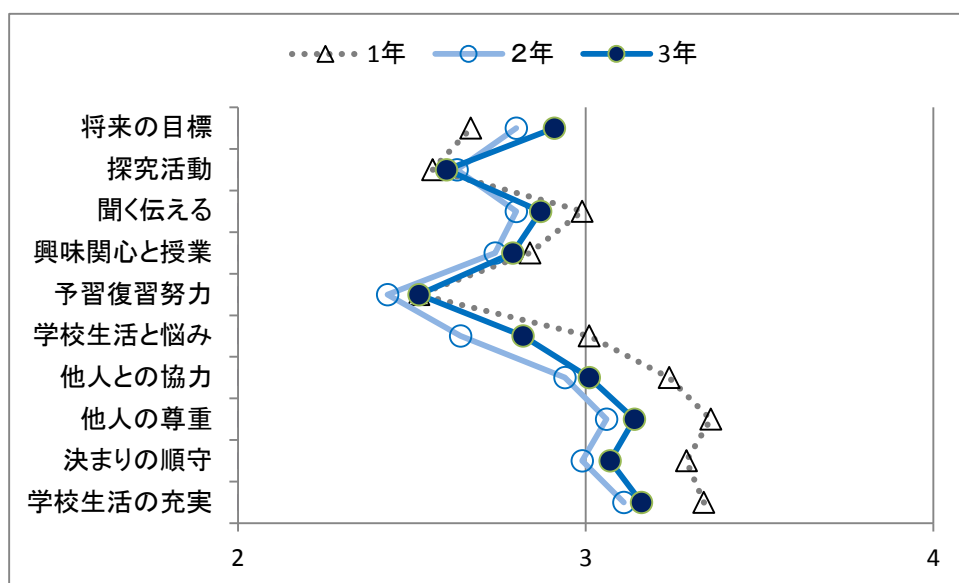


項目	男性	女性	t値	有意水準
将来の目標	2.64	2.92	-3.617	p<0.01
探究活動	2.65	2.53	1.595	
聞く伝える	2.78	2.98	-2.964	p<0.01
興味関心と授業	2.69	2.87	-2.552	p<0.05
予習復習努力	2.32	2.63	-3.940	p<0.01
学校生活と悩み	2.77	2.87	-1.078	
他人との協力	2.91	3.20	-3.775	p<0.01
他人の尊重	3.07	3.30	-3.076	p<0.01
決まりの順守	2.96	3.25	-3.924	p<0.01
学校生活の充実	3.02	3.37	-4.262	p<0.01

生徒の性別に、「将来の目標」から「学校生活の充実」までの10項目に対する回答（1：そう思わない、2：あまりそう思わない、3：多少そう思う、4：そう思う）を比率尺度とみなして平均を算出し、平均の差の推計のために対応のないt検定を施した。

その結果、「探究活動」と「学校生活の悩み」を除く8項目で有意差を認めることができた。有意差の認められたすべての項目において、男子より女子のポイントが高いという結果となっている。性差を踏まえたきめ細かな指導の必要性を示唆する結果といえよう。

④ 生徒の学年による比較



項目	1年	2年	3年	F値	有意水準	多重比較	
将来の目標	2.67	2.80	2.91	3.130	p<0.05	3年>1年	
探究活動	2.56	2.63	2.60	0.282			
聞く伝える	2.99	2.80	2.87	2.495			
興味関心と授業	2.84	2.74	2.79	0.678			
予習復習努力	2.52	2.43	2.52	0.596			
学校生活と悩み	3.01	2.64	2.82	5.890	p<0.05	1年>2年	
他人との協力	3.24	2.94	3.01	5.953	p<0.05	1年>2年	1年>3年
他人の尊重	3.36	3.06	3.14	6.308	p<0.05	1年>2年	1年>3年
決まりの順守	3.29	2.99	3.07	6.218	p<0.05	1年>2年	1年>3年
学校生活の充実	3.34	3.11	3.16	3.004			

「将来の目標」から「学校生活の充実」までの10項目に対する回答（1：そう思わない、2：あまりそう思わない、3：多少そう思う、4：そう思う）を比率尺度とみなして、各学年の生徒の各項目に対する回答の平均を算出し、平均の差の推計に一要因分散分析を施し多重比較には **tukey** の法を用いた。

その結果、学年間で有意差が認められたのは、「将来の目標」「学校生活と悩み」「他人との協力」「他人の尊重」「決まりの順守」の5項目であった。多重比較の結果をみると、「将来の目標」については3年生が1年生よりポイントが高い（学年を追うごとに高くなる傾向にある）という結果となっている。有意差の認められた他の項目については、学年経過とのあいだに特徴的な傾向をうかがうことが難しい結果となっている。

有意差がみられなかった他の項目においても、学年経過とのあいだに特徴的な傾向をうかがうことが難しい結果となっている。

⑤ 生徒の学年毎の組別比較

1年						
項目	1組	2組	3組	4組	F値	有意水準
将来の目標	2.76	2.55	2.59	2.78	0.889	
探究活動	2.46	2.40	2.67	2.71	1.616	
聞く伝える	3.07	2.93	2.90	3.05	0.631	
興味関心と授業	2.80	2.74	2.92	2.90	0.563	
予習復習努力	2.46	2.43	2.59	2.59	0.422	
学校生活と悩み	3.15	2.95	3.03	2.93	0.506	
他人との協力	3.27	3.24	3.23	3.23	0.028	
他人の尊重	3.44	3.29	3.38	3.35	0.333	
決まりの順守	3.29	3.24	3.26	3.38	0.306	
学校生活の充実	3.37	3.36	3.27	3.37	0.122	

2年

項目	1組	2組	3組	4組	F値	有意水準
将来の目標	2.78	2.84	2.85	2.73	0.174	
探究活動	2.73	2.61	2.66	2.50	0.543	
聞く伝える	2.83	2.79	2.78	2.80	0.029	
興味関心と授業	2.90	2.68	2.78	2.58	1.268	
予習復習努力	2.44	2.47	2.56	2.23	1.059	
学校生活と悩み	2.59	2.71	2.59	2.68	0.147	
他人との協力	2.90	3.05	2.88	2.93	0.341	
他人の尊重	3.12	3.03	3.02	3.08	0.126	
決まりの順守	3.07	2.97	2.95	2.95	0.192	
学校生活の充実	3.17	3.16	3.02	3.08	0.262	

3年

項目	1組	2組	3組	4組	F値	有意水準
将来の目標	2.78	3.00	2.77	3.08	1.146	
探究活動	2.56	2.74	2.44	2.63	0.897	
聞く伝える	2.81	2.95	2.72	3.00	0.928	
興味関心と授業	2.64	2.85	2.78	2.89	0.653	
予習復習努力	2.44	2.59	2.53	2.50	0.173	
学校生活と悩み	2.78	2.92	2.83	2.76	0.184	
他人との協力	2.86	3.16	2.81	3.21	1.907	
他人の尊重	2.92	3.26	3.03	3.34	2.152	
決まりの順守	2.89	3.18	2.94	3.24	1.553	
学校生活の充実	2.92	3.32	3.11	3.30	1.368	

「将来の目標」から「学校生活の充実」までの10項目に対する回答（1：そう思わない、2：あまりそう思わない、3：多少そう思う、4：そう思う）を比率尺度とみなして、各学年のクラスごとに各項目に対する回答の平均を算出し、平均の差の推計に一要因分散分析を施し多重比較には tukey の法を用いた。なお、1～4組は、A～D 組には対応しておらず、任意に組み替えを行った。

その結果、すべての学年の各クラス間で有意差が認められる項目は一つもみられなかった。

(5) 調査項目に対する回答の学年推移

○生徒全体

平成25年度→平成26年度

年度 項目	平成25年度			平成26年度		
	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差
将来の目標	472	2.86	0.857	471	2.79	0.863
探究活動	473	2.62	0.828	472	2.59	0.801
聞く伝える	473	2.92	0.793	472	2.89	0.764
興味関心と授業	472	2.82	0.783	471	2.79	0.786
予習復習努力	473	2.58	0.875	472	2.49	0.857
学校生活と悩み	472	2.82	1.031	470	2.83	0.990
他人との協力	471	3.08	0.877	469	3.07	0.828
他人の尊重	470	3.20	0.862	470	3.19	0.798
決まりの順守	467	3.17	0.806	470	3.12	0.806
学校生活の充実	452	3.23	0.919	462	3.21	0.888

○保護者

平成25年度→平成26年度

年度 項目	平成25年度			平成26年度		
	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差
将来の目標	305	2.92	.980	248	3.04	.890
探究活動	305	2.70	.907	248	2.81	.841
聞く伝える	305	3.12	.796	248	3.20	.679
興味関心と授業	305	2.95	.829	247	2.99	.768
予習復習努力	304	2.79	.933	248	2.86	.889
学校生活と悩み	305	3.20	.846	246	3.30	.803
他人との協力	305	3.48	.707	247	3.53	.636
他人の尊重	304	3.55	.638	247	3.62	.570
決まりの順守	305	3.48	.674	247	3.51	.643
学校生活の充実	305	3.55	.687	247	3.64	.629

p<0.05

○教員

平成25年度→平成26年度

年度 項目	平成25年度			平成26年度		
	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差
将来の目標	26	3.31	.679	25	3.32	.802
探究活動	26	3.27	.827	25	3.24	.879
聞く伝える	26	3.31	.838	25	3.36	.810
興味関心と授業	26	3.62	.637	25	3.44	.870
予習復習努力	26	2.85	.834	25	2.80	.816
学校生活と悩み	26	2.27	1.041	25	2.48	1.159
他人との協力	26	3.35	.745	25	3.08	.812
他人の尊重	26	3.12	.711	25	3.12	.666
決まりの順守	26	2.96	.695	25	3.09	.723
学校生活の充実	25	3.28	.891	25	3.36	.810

○生徒・57期生

57期生（2年→3年）

年度 項目	平成25年度			平成26年度		
	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差
将来の目標	156	2.86	0.838	148	2.91	0.888
探究活動	157	2.58	0.761	149	2.60	0.813
聞く伝える	157	2.82	0.729	149	2.87	0.808
興味関心と授業	157	2.75	0.767	149	2.79	0.832
予習復習努力	157	2.58	0.817	149	2.52	0.882
学校生活と悩み	156	2.80	1.068	148	2.82	1.015
他人との協力	156	3.06	0.914	148	3.01	0.911
他人の尊重	155	3.17	0.898	148	3.14	0.833
決まりの順守	153	3.11	0.816	148	3.07	0.846
学校生活の充実	147	3.19	0.968	146	3.16	0.969

○生徒・58期生

58期生（1年→2年）

年度 項目	平成25年度			平成26年度		
	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差
将来の目標	166	2.70	0.782	160	2.80	0.896
探究活動	166	2.55	0.775	160	2.63	0.837
聞く伝える	166	2.85	0.799	160	2.80	0.783
興味関心と授業	165	2.84	0.735	160	2.74	0.789
予習復習努力	166	2.52	0.851	160	2.43	0.880
学校生活と悩み	166	2.72	0.982	160	2.64	1.037
他人との協力	165	3.07	0.774	159	2.94	0.824
他人の尊重	165	3.17	0.809	160	3.06	0.822
決まりの順守	165	3.15	0.801	160	2.99	0.847
学校生活の充実	160	3.19	0.880	158	3.11	0.864

○生徒・59期生

59期生（中3年→1年）

年度 項目	平成25年度			平成26年度			
	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	
将来の目標	159	2.74	0.821	163	2.67	0.794	
探究活動	159	2.58	0.715	163	2.56	0.754	
聞く伝える	159	2.99	0.595	163	2.99	0.694	
興味関心と授業	159	3.00	0.720	162	2.84	0.739	
予習復習努力	159	2.64	0.815	163	2.52	0.812	
学校生活と悩み	159	3.06	0.985	162	3.01	0.885	
他人との協力	159	3.45	0.682	162	3.24	0.721	p<0.01
他人の尊重	159	3.44	0.662	162	3.36	0.712	
決まりの順守	159	3.31	0.746	162	3.29	0.693	
学校生活の充実	159	3.53	0.762	158	3.34	0.820	p<0.05

注）59期生の平成25年度分の数値は、附属天王寺中学3年生の数値を用いた。各年度間の平均の比較については、各人を対応させて分析できなかったことから、平均の比較には参考のため便宜的に対応のないt検定を用いた。